

第9回職員研究交流集会 分科会一覧 <11分科会 19会場>

NO	分科会名	テーマ	分散会	分散会名	座長	助言者
A	01 施設でその人らしい暮らしを支える	<p>暮らしの場として入居者自身がお互いの関わりや毎日の暮らしをどのようにつくり出しているのか実践を持ち寄りましょう。またより重度化していく中での特養での暮らしのあり方を検討していきます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化、胃ろうなど医療処置の増加への対応</li> <li>・厳しい体制の中でも、工夫しながら「その人らしい暮らし」を支える</li> <li>・創意思工をしながらすすめているユニット・グループケアの実践</li> <li>・「小規模・小集団ケア」のメリット、デメリット、課題</li> <li>・実践を通して入居者や職員がどう変わったか</li> <li>・認知症高齢者の尊厳を守るための支援</li> <li>・逆デイ、老幼ケア、ふるさと訪問など、地域との交流の経験</li> <li>・09改訂・加算をどう見るか</li> </ul>	A-1	新型・ユニット型を中心に	奈良 こがねの里 施設長 宋 孝	岡山 健生園 施設長 竹永 徹
			A-2	従来型を中心に	新潟 しおかぜ荘 施設長 松井 裕	北海道 かりが、あつべつ 施設長 石井 秀夫
			A-3	認知症の方のケア	山形 とかみ共生苑 施設サービスマネージャー 阿曹 好美	愛知 蒲郡眺海園 施設長 早川 昌宏
			A-4	重度化への対応	広島 くすの木苑 ※調整中	群馬 誠の園 施設長 山口 千春
B	02 施設の暮らしの中で食を支える	<p>重度化に伴う食形態やユニットケア体制における現場調理や療養食加算の算定など施設における食の形態やあり方が複雑さを増してきました食事のあり方、課題について議論しましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護報酬改定が食の提供に及ぼしている影響や経営面での影響</li> <li>・一人一人に合わせた食の提供の工夫、委託業者との連携</li> <li>・最後まで食べる楽しさを継続する取り組み、生きた栄養ケアマネジメント</li> </ul>	B	食を支える	大阪 いのこの里 施設長 山本 智光	福岡 いきいき八田 管理栄養士 森山 史世
C	03 施設の暮らしの中で医療・健康管理を考える	<p>健康管理をはじめ感染症対策、対応がより求められています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活を支える看護・他専門職の役割・あり方</li> <li>・他職種との連携・課題</li> <li>・高齢者施設における医療のあり方と医療機関との連携</li> <li>・感染症対策の取り組み</li> <li>・「看取り」の実践</li> <li>・介護職の医療行為について（医学的知識・業務手順等）</li> </ul>	C	医療・健康管理を考える	東京 みやま大樹の苑 医務・リハビリ科長 稲垣 瑞恵	長崎 老人保健施設 恵仁荘 施設長（医師） 山下 兼彦
D	04 在宅生活を支える デイ・ショート専業	<p>国の政策は施設から在宅へとますます強められており、重度の在宅生活者が増加する事が予測されます。在宅生活を支えるデイやショートのあり方を議論しましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用することで本人家族はどのように変化し暮らし始めているか</li> <li>・デイ・ショートを一時的に取り組んでいるところの実践事例</li> <li>・多様化する利用目的への対応（ケアプランとの連動、長時間型、夜間型など）</li> <li>・事故防止の取り組み</li> <li>・業務の工夫改善・利用者拡大の取り組み</li> <li>・ショートにおける個別の援助とは？</li> <li>・介護予防（デイ）への取り組み、その効果</li> <li>・個別機能訓練、口腔ケア、栄養マネジメントの取り組み</li> <li>・家族との連携、家族に対する相談、援助、認知世帯への援助</li> <li>・デイ、ショートにおける各職種の役割と連携</li> </ul>	D-1	ショートステイのとりくみを中心に	新潟 あしぬま荘 ※調整中	福岡 あゆみ老人訪問看護ステーション 所長 林 ゆかり
			D-2	通所のとりくみを中心に	大阪 いのこの里ケアプランセンター 管理者 益田 洋平	福岡 愛・あいデイサービスセンター 管理者 山田 直樹

NO	分科会名	テーマ	分代会	分代会名	座長	助言者
E	05 育ち合い育てあう 職場づくりをめざして	<p>(青年の広場) 福祉の職場での働きがい生き甲斐について語りましょう ・どんな職員に成長したいか、なりたいか ・研修、職場運営に望むこと ・学び合い育ちあえる職場運営の経験 (より良い職場づくりのために) 働きがいある職場作りの基礎は民主的管理運営です。中間管理職の立場の悩みや課題も率直に出し合いながら議論しましょう ・リーディング ・職場会議の持ち方、職場運営 ・求められる中間管理職、果たす役割 ・研修制度、人事育成 ・職場におけるメンタルヘルスの取り組み、課題</p>	E-1	青年の広場	石川 やすらぎホーム 施設長 坂口 朋美	富山 老人保健施設 レインボー 副施設長 山田 麗子
			E-2	より良い 職場づくりのために	静岡 芳川の里 施設長 宮形 淳	大阪 社会福祉法人こぼと会 法人事務局長 正森 克也
F	06 人としての尊厳と 安心・安全な 生活を考える	<p>日常の暮らしの中でリスクは避けられませんが、利用者・家族との信頼関係の構築本人の尊厳を大切にしながら安全に安心して暮らしていただくための取り組みについて実践を持ち寄り議論しましょう ・ヒヤリしたものの取り組み ・発生した事故から学ぶこと ・転倒防止の工夫 ・事故防止の取り組みや体制 ・身体拘束、虐待防止の取り組み</p>	F	人としての尊厳、 安心安全な生活	東京 みやま大樹の苑 施設長 相羽 孝昭	福岡 福岡弁護士会 あいゆう ※弁護士で調整中
G	07 地域で 暮らし続ける	<p>高齢者が地域の中で暮らしていく上で認知症のケアはたくさんさんの課題を抱えています。独居・老老・認知介護への働きかけや地域に向けた啓蒙・認知症サポーター、ネットワーク作り、家族フォローや介入などの経験を持ち寄り議論しましょう (訪問介護) 度重なる制度改正に利用者、家族は大きな影響を受けました。それをどう乗り越えてきたのか、また地域との連携や社会的地位の向上にどんな実践を行っているのか、経験を持ち寄り議論しましょう ・質の向上の取り組み・サービス提供者の役割 ・ネットワーク、地域づくりの取り組み、「同居家族」問題など制度矛盾への対応 ・「特定事業所加算」へのとりくみ、問題点 (グループホーム) 地域密着型サービスとして、地域の中でのグループホームの存在、あり方、重度者の生活の仕方やケアの質が問われています。経験を交流しましょう ・グループホームでのケアのあり方、「看取り」「家庭復帰」へのとりくみ ・グループホームと地域との関わり、「家族会」や「運営協議会」の機能 (居宅介護支援・地域包括支援センター) 地域作りやネットワーク作り、困難事例への対応、公的責任の問題など経験を持ち寄りましょう ・連携の課題、地域の課題 ・権利擁護、行政との関係 (小規模多機能施設) 地域で暮らし続けるためのサービスとして期待されましたが、実践を通してメリットともに、多くの問題も浮かび上がってきています。取り組みや課題について検討しましょう</p>	G-1	ホームヘルプサービスを 中心に	福岡 ヘルパーステーション たすけ愛の会ひまわり 所長 吉富 薫	福岡 日本ホームヘルパー協会 北九州支部 会長 坂本 幸美
			G-2	グループホームケア を中心に	島根 ひまわり園 施設長 常陸 実	福岡 グループホームらいふ 管理者 江水 寿美江
			G-3	居宅介護支援、 地域包括支援センター、 在宅介護支援センター	東京 信愛泉苑 施設長 武田 恵	福岡 千鳥橋病院 介護支援セン ター 所長 矢野 美代子
G-4	G-4	小規模多機能施設	京都 社会福祉法人七野会 常務 橋本 信夫	福岡 医療法人親仁会 介護福祉事業部部長 早川 龍太		

NO	分科会名	テーマ	分科会	分散会名	座長	助言者
H	08 地域や利用者・家族に 支えられた 施設づくりのために	施設職員以外の参加者の意見を聞き、地域に支えられた施設運営、職員との関わりなど大いに議論しましょう。家族会や地域の方など大歓迎 ・地域に根ざした施設運営、新期事業計画 ・施設を支える会の活動交流・家族会活動・ボランティア活動 ・苦情や意見の施設運営への反映 ・利用者アンケート、利用者満足度調査と運営改善運動など ・地域の要望に応えた法人の自主事業、ふくしの町づくりへの参加	H	地域や家族に 支えられた施設づくり	東京 白十字ホーム 施設長 西岡 修	福岡 デイサービスひまわり はらだ 管理者 小池 多恵子
I	09 有料ホーム・ケアハウスなど 「高齢者住宅」のあり方を 考える	ケア付き住宅、有料老人ホーム(住宅型、介護付き)、高専重・高価質など多様な住まいが どんどん作られています。どうすれば安心の住まい、「終の棲家」になり得るのか。実践を持 ち寄りましょう ・「重度化」の対応 ・医療・福祉・地域との連携 ・利用者の状況から見えてくる役割 ・相談機能	I	高齢者住宅のあり方	宮城 宮城野の里 施設長 小野 ともみ	福岡 ケアハウスらいふ戸畑 施設長 内田 義則
J	10 養護老人ホームの 役割、あり方を考える	新制度移行後のいろいろな影響や課題について議論しましょう ・自治体への働きかけ、低所得・社会適応困難高齢者の実態 ・養護老人ホームのあり方、事例交流 ・「外部利用型」の導入など制度転換への対応	J	養護老人ホーム	長野 ハートヒル川路 事務長 西田 克美	大阪 榎ノ木荘 施設長 中村 公三
K	11 福祉施設における 事務の役割を考える	事業の多様化、制度改定、厳しい経営環境のなか、「実務の要」としての役割がますます重 要になっています。また、行政や地域との関係づくりの上でもその能力を求められていま す。事務の役割についての議論を深めましょう ・福祉施設における事務部門の役割 ・事務・経理・総務業務の効率化、経営データの活用・提言 ・事務部門からみた介護保険制度の問題 ・施設の民主的運営の課題、各種委員会・事務局など運営への参加 ・全職員参加の経営、処遇改善へ向けたとりくみなど	K	事務の役割	兵庫 にしのみや苑 施設長 細岡 雄二	長崎 社会福祉法人春風会 副理事長 柴田 親男

※座長・助言者は、変更になる場合がありますのでご了承ください。  
※会場の定員に達し次第、「第2希望」の分科会にご参加いただくこととなりますのでお申し込みはお早めをお願いします。(申込用紙参照)



# 分科会で発表する演題を募集しています!!

昨年の第8回職員研究交流集会は大阪で開催され、500名もの参加者が多いに学び、交流を深めました。2日目におこなわれた分科会では、各現場のテーマにあわせて21の分散会が構成され、全国から116本もの実践報告が寄せられました。

日々、一生懸命高齢者に寄り添いながら、ゆたかな援助実践が続けられている全国のみなさん。

**ぜひとも日ごろの地道な実践を福岡に持ちより、ともに学び合い、“明日からのエネルギー”に変えていきましょう！  
前頁の分科会一覧表をご参照のうえ、発表をご検討ください！！お待ちしております。**

発表していただける方は、次ページ「演題募集のエントリー」用紙に必要事項をご記入の上、21・老福連事務局までFAXにてお送りください。この「演題募集のエントリー」は9月10日(木)が締め切りです。

なお、当日、参加者にお配りする資料集に掲載の＜発表原稿＞は、下記「研究・実践報告の提出について」をご参照の上、9月30日(水)までにご提出下さい。同じく、発表時に＜パワーポイントを使用する場合＞につきましては、次ページの「Power Pointを用いての発表についてのお願い」をご参照の上、10月20日(火)までに郵送で下記住所までお送りください。

## ～研究・実践報告の提出について～

21・老福連第9回職員研究交流集会の成功のため、研究・実践報告をもってご参加いただきたく、発表原稿をお待ちしております。つきましては、当日配布の資料集に掲載する原稿を下記のとおりご提出いただくようお願い申し上げます。提出いただいた原稿はそのまま資料集として印刷させていただきます。

### 1. 発表原稿の様式： 下記のとおり \* 文書はワードにて作成のこと

タイトル	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	(フォントサイズ12)
サブタイトル	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	(フォントサイズ9)
都道府県名	所属の施設種別名	施設名
職名	氏名	
(都道府県名以下フォントサイズ10.5)		

(章立てをする場合は次の数字を当てる) 1 → 章 1) → 節 ① → 項

- 用紙サイズはA4／余白：上下・左右とも20ミリ／横書き／1行45字・1枚45行／(概ね2～4枚程度)
- ＜本文の文字＞⇒MS明朝、フォントサイズは10.5 ＜タイトル＞⇒は上記例示のように□□□□で囲み、文字はMSゴシック(フォントサイズは、タイトルは12、サブタイトルを付す場合はフォントサイズ9、その他は10.5)
- Wordファイル名：【[分科会No][県名][施設名][氏名]】 (例) 1-2 福岡いきいき 博多次郎
- 章立てをする場合には、章に1, 2, 3の数字、節に1), 2), 3)のように片 )の数字、項に①②③の囲いのある数字を用い、本文との違いを明確にするため、文字はMSゴシックとする。
- Wordソフトの「2007」で作成した文書は、必ず「2003形式で保存」をしてから添付をすること。
- 発表方法は資料集に掲載されたレジュメ等に基づくものとする。なお、パワーポイント等の使用については、演題エントリーの時点で申し出があったものしか認められません。
- 発表原稿のワード文書に写真等を添付して送信される場合、ある程度容量が大きい分については別途記憶媒体に保存の上、郵送にて送付していただくようお願い致します。
- 研究交流集会に参加できない方々とも実践交流を図る主旨で、研究・実践報告(発表)された内容を情報交流誌「ぼとぼら」の特集記事として取り上げることもございます。ご承知おきください。

### 2. 発表時間： 1演題 10～20分程度 各分科会の演題数によって異なるためあくまで目安です

### 3. 提出期限： 9月 30日(水)必着

### 4. 提出先： Eメールにて Wordファイルを添付 ◆ 青葉苑(担当：榎本)アドレス 【 E-mail 9roufuku@aoba-en.jp 】

# ～ Power Pointを用いての発表についてのお願い ～

## 1. 使用機材について

発表に使用する機材はパソコン・プロジェクターとします。パソコン・プロジェクターおよび接続用ケーブルは主催者側で準備致します。(なお、「発表演題募集」応募の際、ノートPC持参可とお答えいただいた方には、事務局から個々にお問い合わせの場がありますのでご了解ください)

## 2. データの事前提出について

あらかじめ、発表データを下記住所に送付いただくこととします。提出はCD-Rにてお願い致します。(メール添付はご遠慮ください)なお、提出の際にはPPのバージョンを必ずご明記下さい。また、動画の使用は不可です。

また作成の際には、MS明朝、MSゴシック等Windows添付の標準フォントで、写真等を用いる場合は、アクセサリのペイント等で表示される実寸サイズにあらかじめ小さくしたものをご使用いただきますようお願いいたします。

## 3. 発表について

発表時は、各分科会で使用するPCのデスクトップにPPファイルをコピーしておきますが、操作は各自で責任を持ってこなして下さい。予め動作確認などは主催者側で実施し、トラブルのないように努めますが、基本的には各自で対応して頂く事となります。ご不明な点がございましたら、下記にご連絡をお願い致します。

## 4. 提出期限： 10月 20日(火) 必着

5. 提出先 : 特別養護老人ホーム青葉苑 (担当:榎本・エノキモト)  
〒850-0952 長崎県長崎市戸町4丁目7-17  
TEL 095-898-5557 FAX 095-898-5536  
E-mail 9roufuku@aoba-en.jp

# ～ 各期日を守ってご提出ください ～

運営にご協力願います

## 「演題募集のエントリー」×切は9月10日(木)です

エントリー用紙に必要事項をご記入いただき、老福連事務局まで FAXで送信願います。【番号 075-494-1135】

## 「発表原稿」の提出×切は9月30日(水)です

Eメールにて Wordファイルを添付を添付の上、青葉苑(担当:榎本)までお送りください。E-mailアドレスは【9roufuku@aoba-en.jp】

## 「PowerPointデータ」の提出×切は10月20日(火)です

データをCDにコピーの上、青葉苑(担当:榎本)までお送りください。  
送付先 【〒850-0952 長崎県長崎市戸町4丁目7-17】 まで!



# ～ 演題募集のエントリー ～

「演題募集のエントリー」〆切は9月10日(木)です

施設名		施設住所	〒
施設種別		TEL	
		FAX	
発表者名		職種	
◆必ずご記入ください 第(      —      ) 希望分科会 (分散会番号も忘れず)	演 題		
発表内容 (簡潔に)			
◆必ずご記入ください 発表の際にパワーポイントの使用を予定していますか ※動画は不可	している ・ していない (いずれかに○を)		
ノートPC持参 (パワーポイントソフトが入ってなくても可) ※現地で用意できない時はお願いすることもあります	できる ・ できない		
◇上記「PC持参」の設問で「できる」とお答えいただいた方 Windowsのバージョン パワーポイントのバージョン	※ 該当箇所にチェック願います <input type="checkbox"/> 98 <input type="checkbox"/> Me <input type="checkbox"/> XP <input type="checkbox"/> VISTA <input type="checkbox"/> 2000 <input type="checkbox"/> 2002 <input type="checkbox"/> 2003 <input type="checkbox"/> 2007		

◇問い合わせ・送付先：21老福連 事務局 TEL 075-494-1115

FAX 075-494-1135